

魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：和久田高之

所属：神奈川県立相模原中央支援学校

記録日：2019年2月9日

キーワード：コミュニケーション、VOCA、表現、動画・写真

【対象生徒の情報】

○学年

中学部3年生 15歳

○障害名

肢体不自由（知的障害を伴う）

○障害と困難の内容

基本情報

- ・太田 Stage 評価は、StageⅣの前期段階である。（H30年4月）
- ・清音のひらがな／カタカナを理解している（濁音、破裂音、促音、拗音の理解は難しい）。
- ・言語表出はすべてペチャラ（意思伝達装置）を使用している。
- ・自分から友達に関わるのが好き。せっかちな性格で待つことが苦手。
- ・iPadへの関心が高く、ホームボタンを押したり、様々なアプリを開いたり閉じたりする。
- ・iPadを机に置いて操作することが難しく、iPadを傾けて提示したり肘を支えたりする必要がある。

本人の困り感①「自分の気持ち（要求等）を的確に伝えられない」

挨拶（ありがとう、ごめんなさい）や簡単な要求（しりとりがしたい、散歩に行きたい）はペチャラに登録してある文を呼び出して表出することができる。登録できる文に限界があるため、やりたいことを詳しく（誰としりとりをしたいのか、どこに散歩に行きたいのか）伝えることができない。ペチャラの入力に時間がかかったり入力ミスがあったりして、意思表示が上手にできないこともある。
→関わってほしい人や行きたい場所はあるが伝わらない。

本人の困り感②「家庭や学校で『経験したこと』を伝えられない」

日常的に使用する言葉（おはよう、トイレ、教員名）やしりとりで使用する言葉（りんご、ごりら、らくだ等）は、ペチャラで一文字ずつ入力して表出できる。ペチャラで入力したことがない言葉や経験に関する言葉を表出することが難しい。しかし、一文字目を伝えると表出できたり、イラストだと選択できたりする。
→朝の会／帰りの会で、家庭での出来事や授業で楽しかったことが伝えられない…

【活動目的】

○当初のねらい

- （1）自分の気持ち（要求等）を的確に伝えることができる。
- （2）家庭での出来事等の「経験したこと」を教員や友達に伝えることができる。

○実施期間

平成30年5月～平成31年1月

○実施者

和久田高之

○実施者と対象生徒の関係

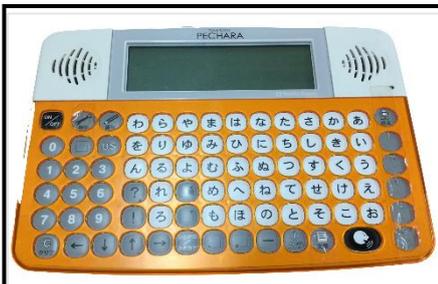
担任

【活動内容と対象生徒の変化】

〔1〕『自分の気持ち（要求等）を的確に伝えることができる。』について

○対象生徒の事前の状況

- ・ペチャラ（画像1）に登録してある言葉呼び出して、挨拶や簡単な要求は表出することができる。登録できる文に限界があり、やりたいことを詳しく伝えることができない。また、ペチャラの入力に時間がかかったり入力ミスがあったりするため、意思表示が上手にできないこともある。
- ・机に貼ったコミュニケーションボード（画像2）を使用して、質問（〇〇さんとしりとりしますか？××に散歩に行きますか？等）に「はい」「いいえ」で答えることができる。また、「トイレに行く」「iPadがほしい」等の要求もできる。
- ・感情の表出をペチャラで表出することが難しい。表情が変化したときに気持ちを聞くと、ペチャラでは「こわい」としか表現しない。嬉しい？悲しい？等のイラストの2択にすると答えることができる。
- ・iPadを渡すと、カメラやゲーム等の様々なアプリを開いたりホームボタンを押して閉じたりする。その後、同じ／違うアプリを開いたり閉じたりすることを繰り返し、iPadは玩具のように使用している。
- ・昨年度まで余暇としてiPadのKeynote（画像3）を活用していたとき、リンク機能を理解していた。



（画像1）ペチャラ
2回のタッチで登録した言葉を伝えることができる。
（例）☞+あ⇒ありがとう
☞+し⇒しりとりがしたい



（画像2）コミュニケーションボード
発声での意思確認が難しいため、質問ごとに「はい」「いいえ」の確認を行っている。
机は常時着用している。



（画像3）昨年度使っていた余暇アプリ
自分の好きな動物を見て過ごすことができた。リンク機能が多いが、「ゾウ見せて」というとゾウのリンクまで飛ぶことができた。

○活動の具体的内容



《DropTalk を活用した取り組み》

- ＜第1ステージ＞ やりたいことを伝えてiPad（DropTalk）に慣れよう！
シンボル（ドロップス）で感情を表現する言葉を知ろう！
- ＜第2ステージ＞ 「誰と」「どこへ」何をしたいのかを伝えよう！（リンク機能を知ろう）
- ＜第3ステージ＞ 自分の気持ち（要求等）を的確に伝えよう！
- ＜第4ステージ＞ もっと伝えよう！！

＜第1ステージ＞やりたいことを伝えてiPad（DropTalk）に慣れよう！（6月～9月）

【困り感】



- ・自分のやりたいことを伝える経験に乏しく、余暇も教員の意向に従うだけのときもある。
- ・iPadを触ることに必死で力が入ってしまうため、タッチしたい場所をタッチできない。
- ・様々なアプリを開いたりホームボタンを押して閉じたりして操作できなくなる。
⇒iPadに慣れる必要がある。

【仮説】



- ・やりたいことが伝わる経験を積むことで、自分の意思発信に自信がつくのではないかな？
- ・iPadに慣れることで、玩具としてiPadを使用することがなくなるのではないかな？
また力が入ることが減少したりタッチの正確性が向上したりするのではないかな？

【取り組み】



・DropTalk でやりたいこと (iPad、ペチャラ、さんぽ、たたかい、ストレッチ) を選択できる教材を作成した。



キャンバスリンクの様子



タッチをしたら、音声 (「iPad」「ペチャラ」等) が流れるようにして、本人が何をタッチしたかを確認できるようにした。

9月から iPad とペチャラを選択した後にリンクを追加した。

《コミュニケーションの流れ》

- ① 教員：「何をして、昼休みを過ごしますか？」→iPad を提示する。
- ② 生徒：(画像を選択して)「さんぽ」と音声流れる。
- ③ 教員：「散歩に行きますか？」(誤操作の可能性があるので確認する。)
- ④ 生徒：コミュニケーションボードで「はい」「いいえ」を伝える。
- ⑤ 教員：「散歩に行きましょう。」

【行動の変化】



・iPad を近づけてもすぐにタッチしなくなったりホームボタンを押さなくなったりした。
 ・本人の操作性の向上で、少ないタッチ数でやりたいことを伝えられるようになってきた。
 ⇒iPad をツールとして理解し始めたことがうかがえる。また、自分のやりたいマスを正確に押せるようになってきた。

＜第1ステージ＞シンボル (ドロップス) で感情を表現する言葉を知ろう！ (7月～9月)

【困り感】



・怖い、うるさい、嬉しいという場面で泣くことがあるため、表情や行動だけでは感情が伝わらないこともある。
 ・ペチャラで「こわい」としか表現しないため、自分の気持ちが教員や友達に理解されない。
 ⇒感情を表現する言葉の表出を練習が必要である。

【仮説】



・感情を表現する言葉 (嬉しい、楽しい、悲しい等) は内言語としてありそうだが、表出言語にはなっていないため、ペチャラで練習をすれば表出できるのではないかな？

【取り組み】



・ドロップスのシンボルで感情を確認できるカードを作成した。



表情が変化したときに、どのような感情かをイラストを一つずつ提示しながら質問するようにした。(初歩段階は、好きな先生と会って笑っている場面やサイレンを聞いて泣いている場面等の分かりやすい動画を見て確認をした。)

《コミュニケーションの流れ》

- ① 教員：「どうしたの？たのしいですか？」（ドロップスのシンボルを提示する）
- ② 生徒：コミュニケーションボードで「はい」「いいえ」を伝える。
- ③ 教員：「そうなんだ。ペチャラで伝えてみよう」（明らかに異なる表出のときは適切な表現を伝える）
- ④ 生徒：「たのしい（ペチャラ）」

【行動の変化】



- ・最初は「可愛い」と表出することが多かったが、徐々に「たのしい」「うれしい」「すき」「うるさい」と表出できる言葉が増えてきた。
 - ・シンボルで提示したことがない「かんどう」「くやしい」と表出することもあった。
- ⇒感情を表現できる言葉が増えた。

＜第2ステージ＞「誰と」「どこへ」何をしたいのかを伝えよう！（10月上旬）

【困り感】



- ・机における iPad の操作（画面左上のタッチ）が難しく、肘を支える等の支援が必要である。
 - ・やりたいことを詳しく（「誰と」「どこへ」）伝えることができない。
- ⇒マスの位置を調整したり、詳しく伝えるマスを追加したりする必要がある。

【仮説】

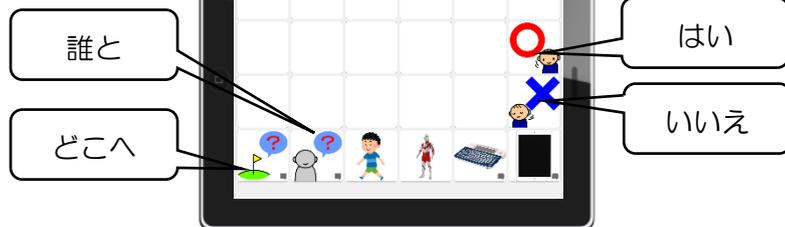


- ・画面左上をタッチするとき手の甲が当たってしまうなら、マスを画面左上から除けばタッチの正確性が向上したり補助が必要ではなくなったりするのではないかな？
- ・リンク機能を追加すれば、関わりたい人や行きたい場所を伝えることができるのではないかな？

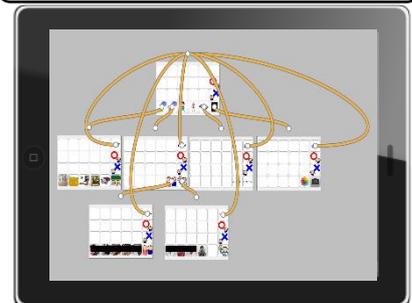
【取り組み】



- ・OT（作業療法士）と相談しながら、DropTalk のマスの配置をタッチしやすいL字にした。



キャンバスリンクの様子

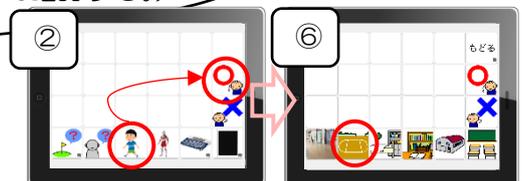


「誰と」「どこへ」を選択できるようにした。「はい」「いいえ」のマスを作り、確認も iPad でできるようにした。

選択したらリンク機能で戻ることができるようにした。

《コミュニケーションの流れ》

- ① 教員：「何をして、昼休みを過ごしますか？」→iPad を提示する。
- ② 生徒：画像を選択して「さんぽ」と音声が出る。
- ③ 教員：「散歩に行きますか？」（誤操作がある可能性があるため確認する。）
- ④ 生徒：iPad で「はい」「いいえ」を伝える。
- ⑤ 教員：どこに行きますか？
- ⑥ 生徒：「グラウンド」
- ⑦ 教員：「じゃあ、グラウンドに行きましょう。」



【行動の変化】



- ・マスの配置をL字にしたことで、補助がなくてもタッチすることができるようになった。
 - ・誰と何をしたいか（会いたい）、どこへ行きたいかを伝えられるようになった。
- ⇒自力でタッチできるようになったことで、要求がスムーズになった。

＜第3ステージ＞自分の気持ち（要求等）を的確に伝えよう！（10月下旬～1月上旬）

【困り感】



- ・iPad でやりたいことはスムーズに伝えられるが、挨拶や感情を伝えることはペチャラを使用するためツールを置き換える必要があり、タイムリーな気持ちが伝わらない。
 - ・iPad が必要なときには、iPad を教員に要求する必要がある。
- ⇒挨拶や感情を伝えるキャンバスが必要である。簡単に電源を入切できる仕組みが必要である。

【仮説】

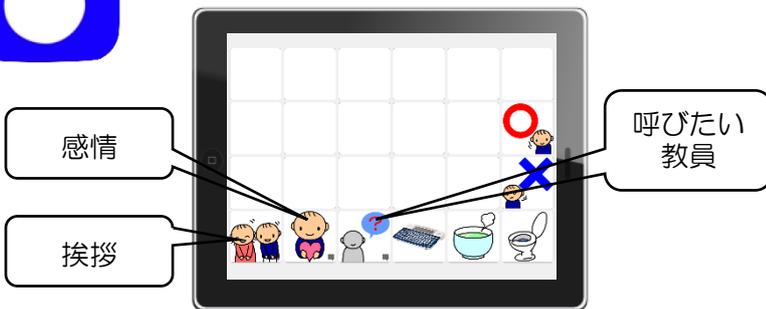


- ・挨拶や感情を伝えるマスがあれば、タイムリーな気持ちを伝えることができるのではないかな？
- ・自分で電源を入れたり切ったりすることができれば、常時 iPad を机の上に置いておくことができるのではないかな？

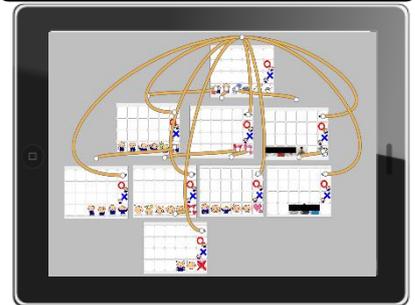
【取り組み】



- ・やりたいことを伝えるキャンバスと別に、挨拶や感情を伝えられるキャンバスを作成した。

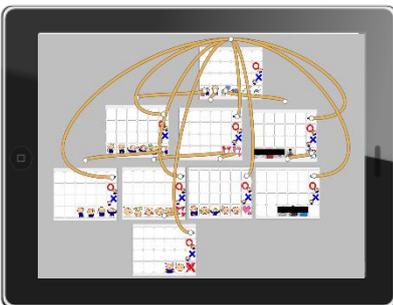


キャンバスリンクの様子

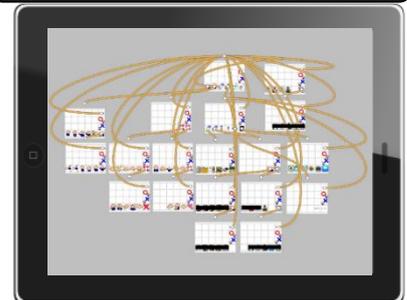


挨拶や感情、関わりたい教員を呼べるようにした。日常的に机に iPad を置くようにした。

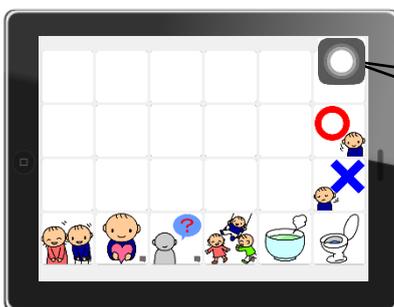
キャンバスリンクの様子



やりたいこと（余暇）を追加（11月～）



- ・設定の AssistiveTouch で、ワンタッチで電源を切ることができるようにした。

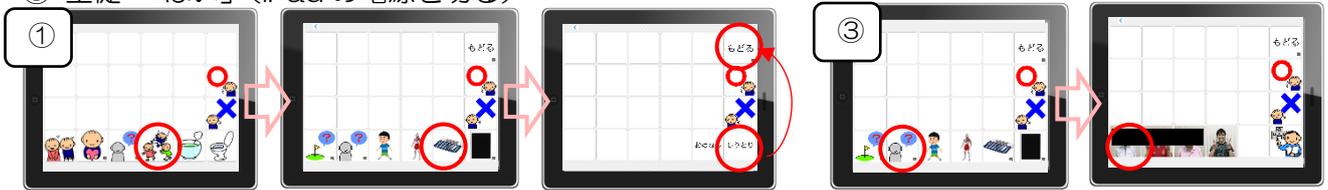


Assistive Touch

ホームボタンで電源を付けて、AssistiveTouch で電源を切ることができるようにした。

《コミュニケーションの流れ①》

- ① 生徒：(iPad の電源を入れて)「しりとりがしたい」
- ② A教員：「誰としりとりしますか？」
- ③ 生徒：「B先生」→「はい」 or タッチミスで「C先生」→「いいえ」→「B先生」→「はい」
- ④ A教員：「じゃあ、B先生のところに行こうか。」
- ⑤ 生徒：「はい」(iPad の電源を切る)



《コミュニケーションの流れ②》

- ① 生徒：(iPad の電源を入れて)「さんぽにいきたい」→「保健室」
- ② 教員：「保健室に行きたいの？どうしたの？」
- ③ 生徒：「いたい」
- ④ 教員：「どこが痛いの？」
- ⑤ 生徒：左指を右手で触る。(出血している。)
- ⑥ 教員：「大丈夫？保健室に行こう。」
- ⑦ 生徒：(iPad の電源を切る)



《コミュニケーションの流れ③》

- ① 教員：(上着を持って着せようとする)
- ② 生徒：(iPad の電源を入れて)「あたたかい」
- ③ 教員：「え、あたたかいの？ジャンパー着ない？」
- ④ 生徒：「はい」(電源を切る)



《コミュニケーションの流れ④》

- ① 生徒：(iPad の電源を入れて)「A先生来てください」
- ② 教員A：(近づいて)「どうしたの？」
- ③ 生徒：「がんばりました」(係の仕事を終えている)(iPad の電源を切る)
- ④ 教員A：「お疲れ様。じゃあ、次の仕事をやろうか。」



【行動の変化】



- ・質問に答えるだけでなく、自分からやりたいことを伝える、挨拶をする、感情を伝える、教員を呼ぶことができるようになった。
 - ・自力で電源を入れたり切ったりでき、必要な場面でiPadを活用できるようになった。
- ⇒自分からの発信が増えた。

<第4ステージ> もっと伝えよう!!! (1月下旬~)

【困り感】



- ・マスが増えたことで、リンクの回数が増えて伝わるまでに時間がかかるようになった。
 - ・多くのことをiPadで伝えられるが、iPadにないこと(学校や家庭の出来事等)はペチャラを要求しなければいけない。
- ⇒キャンパスの整理や五十音ボードの作成の検討が必要である。

【仮説】

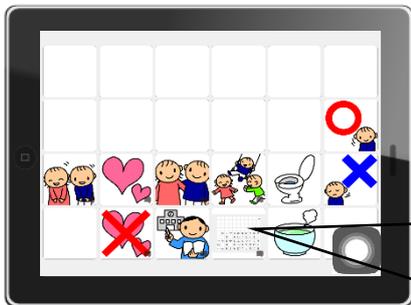


- ・画面の中央部分までは上手にタッチできるようになったのでタッチするマスを増やすことができるか?
- ・タッチの正確性が上がったので、マスを下に集められればペチャラのように五十音ボードで一文字ずつタッチして表出できるのではないか?

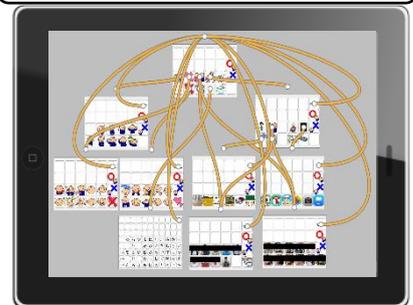
【取り組み】



- ・キャンパスにマスの数を増やして、少ないリンク数で伝えられるようにした。
- ・画面下側にマスを集めて、五十音ボードを作成した。



キャンパスリンクの様子

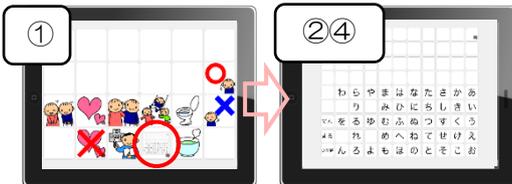


画面の下半分になるように、五十音ボードを作成した。
操作が慣れたところで普段から使うキャンパスに取り入れた。

下2段にマスを取り入れた。
キャンパスの数が半分以下になった。

《コミュニケーションの流れ》

- ① 教員:「今日の放課後はどこにいきますか?」
- ② 生徒:(iPadの電源を入れて、五十音ボードを開き)「□□□(放課後デイサービスの名前)」
- ③ 教員:「わかりました。」
- ④ 生徒:「△△△(放課後デイにいる友達の名前)」
- ⑤ 教員:「△△△ちゃんに会えるといいね。」
- ⑥ 生徒:(iPadの電源を切る。)



【行動の変化】



- ・ペチャラを要求しなくてもiPadの五十音ボードで表出できるようになり、マスにある言葉で対応できることはマスで伝え、マスにない言葉は五十音ボードを活用して伝えることができた。
- ⇒表出が自由になり、いろいろな会話がスムーズになった。

○対象生徒の事後の変化

教員からのコメント

自分の感情を伝えることが増えた。iPad のどこを押せばいいのかわかって、挨拶ややりたいことを伝えることができる。

(中2～3担任A先生)

今までは iPad が遊びの道具であったが、コミュニケーションツールであり、余暇のツールでもあることを認識しているように感じる。

(中1～3担任I先生)

すべて「こわい」と表現していたものが、様々な言葉を使って表現できるようになり、乗り越えられることが増えたように思う。感情が整理されてきていると感じる。(中1～3学部長 O先生)

離れたところにいる教員を呼ぶことを理解してきた。iPad をタッチすることで多様な言葉が表出できることを喜んでいる。

(中3担任H先生)

自分の気持ちを伝える手段を得たことが、気持ちのコントロールに繋がっていると思う。iPad が机上にあっても、必要な場面まで待っていられることが成長だと思う。(小6～中2担任H先生)

保護者からのコメント

iPad は YouTube を見る等の遊び道具だったものがコミュニケーションツールになりました。「誰と何をしたい」とか「うれしい」とか相手に伝えられて本人ももどかしい気持ちが減ったように思います。言葉が話せなくても iPad を使えば、コミュニケーションがとれることが分かり、笑顔が増えたので使っていて良かったと思います。今まで上手く伝えられなかった気持ちややりたいことも iPad を使用することで伝わるようになってきたと思います。

まとめ

- 自分の気持ち（やりたいこと、会いたい友達、行きたい場所や関わりたい教員、挨拶）を伝えることができるようになった。その他にも五十音ボードを使うことによって、伝えられる言葉が増えた。
- 受け身で言われた通り行動することが多かったが、自分から意思発信することが増えたことで、自分のやりたいことができるようになった。

《DropTalk の活用で生徒の表出を支えたこと》

- マスが画像（写真）やイラストでイメージがしやすかったことが、伝えやすさに繋がったと考えられる。（特に、感情の表出ではドロップスのシンボルが分かりやすく、定着を促したと感じる。）
- マスの配置を変えることができ、L字にしたことでタッチの正確性が上がったことが本人からの表出を促したと考えられる。



9月までの様子

全画面にマスがあると、画面左上をタッチするとき母指球が他のマスにあたってしまう。



10月からの様子

L字に配置したことで、タッチがしやすい場所にマスがあり、正確にタッチできるようになった。

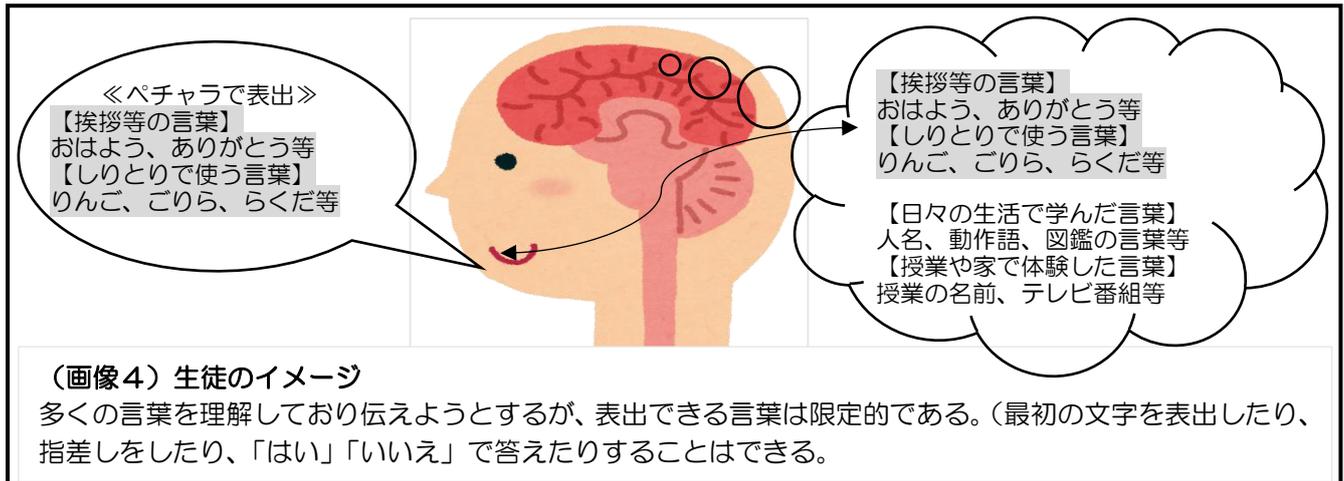
(2)「家庭での出来事等の『経験したこと』を教員や友達に伝えることができる。」について

○対象生徒の事前の状況

- ・日常的に使用する言葉(おはよう、トイシ、教員名)やしりとりで使用する言葉(りんご、ごりら、らくだ等)は表出できる。
- ・ペチャラで入力したことがない言葉や経験に関する言葉を表出することが難しい。しかし、一文字目を伝えたと表出できたり、イラストだと選択できたりする。
- ・教員の簡単な言葉かけ(手を膝に置いてください、ペンを左手から右手に持ち変えてみて等)を理解して行動することができる。

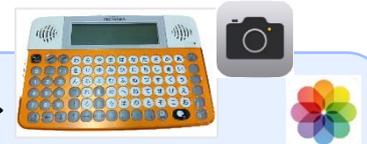
⇒内言語としては理解しているものが多いが、表出できる言語は限定的である(画像4)。

- ・友達や教員に伝えたい気持ちは強く、朝の会や帰りの会で「家で楽しかったこと」「授業で頑張ったこと」を発表する場面では、毎日挙手をして話そうとするが、ペチャラを渡しても困ってしまう。(画像5)



○活動の具体的内容

「ペチャラによる表出を促した取り組み」



<第1ステージ>動画／写真で振り返りをして「経験したこと」を伝えよう！

<第2ステージ>自分の力で「経験したこと」を伝えよう！

<第1ステージ>写真／動画で振り返りをして「経験したこと」を伝えよう！(6月～9月)

【困り感】



- ・伝えたいという気持ちは強いが、表出できる言葉が限られており、伝えられないことが多い。

【仮説】



- ・伝えたいけど伝わらない経験が多く、発表することに自信がないのではないかな？
- ・伝える内容を明確にすることとペチャラの練習をすることで、表出できるのではないかな？

【取り組み】



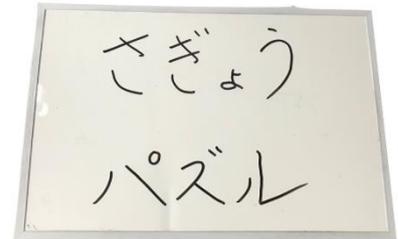
- ・朝教室に着いた後、動画／写真と文字を見ながら家で「経験したこと」を振り返る。
- ・授業の後、動画／写真と文字を見ながら授業で「経験したこと」を振り返る。



- ①「作業」の時間に
- ②「パズル」作ったね
虫の絵を描きましたね



授業の前後に、「経験したこと」を文字でも振り返る。



《家庭の「経験したこと」を表出する流れ》

- (家庭) 保護者：生徒の様子を撮影する。
- (登校後) 教員：「〇〇さんと一緒にお風呂に入ったんだね。」
(iPadで動画／写真とホワイトボードで文字を提示する→ペチャラで練習する)
- (朝の会) 生徒：家庭での出来事を朝の会で発表する。

《学校の「経験したこと」を表出する流れ》

- (授業前) 教員：「これから作業でパズル作りをやります。」(ホワイトボードを提示する。)
- (授業中) 教員：生徒の様子をiPadで撮影する。
- (授業後) 教員：「作業でパズル作りをやったね。」
(iPadの動画／画像とホワイトボードで文字を提示する→ペチャラで練習する)
- (休み時間) 生徒：授業でやったことを友達や教員に伝える。

【行動の変化】



- ・放課後デイサービスの名前や友達の名前、家でやったこと(家族の名前、本の名前や一緒に読んだ人、アンドロイドで見た動画等)を伝えるようになった。
 - ・教科名や単元名を伝えられるようになった。教科名は、年度当初は1つも表出することができなかったが、7月には全教科表出できるようになった。
- ⇒ペチャラで表出できる言葉が増えた。

＜第2ステージ＞自分の力でペチャラを使用して「経験したこと」を伝えよう！（10月～1月）

【仮説】



- ・自発的に表出することが増えたので、振り返りをしなくても「経験したこと」を伝えられるのではないか？

【取り組み】



- ・伝えられなかったときに、動画／写真と文字を見ながら「経験したこと」を確認する。
(伝えられることが多かったため、伝えた後に確認する程度のことほとんどであった。)



《コミュニケーション（朝の会）》 生徒はペチャラで表出

教員：「昨日は、家で何をしましたか？」

生徒：「〇〇さん（入浴介助の方の名前）」

教員：「〇〇さんが、来たんだね。何をしましたか？」

生徒：「ほん」「よむ」

教員：「何の本を読んだの？」

生徒：「ウルトラマン」

《コミュニケーション（帰りの会）》 生徒はペチャラで表出

教員：「今日は何の授業が楽しかったですか？」

生徒：「たいいく」

教員：「体育、頑張ってたね。体育の何が楽しかった？」

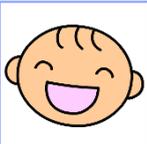
生徒：「トランポリン」

教員：「他にはある？」

生徒：「スター・・・」（表出したいができない）

教員：（写真を見せながら）『スクーターボード』も楽しそうだったね」

【行動の変化】



- ・ 振り返りをしなくてもペチャラで表出することができた。表出した後に、動画／写真を見ることで、他のことも伝えることがあった。
- ・ 週を追うごとに、伝えられる言葉が増えてきた。

⇒自分からペチャラで「経験したこと」を表出するようになった。

○対象生徒の事後の変化

教員からのコメント

表出することに自信を持っている様子がみられ、会話が续くようになった。また、声を出して（喃語）伝えようとするが増えた。

（中2～3担任A先生）

表出できる言葉のバリエーションが増えた。ペチャラ、iPad を状況に応じて自分で選び、思いを伝えられるようになった。

（中1～3担任I先生）

保護者からのコメント

自宅のペチャラで自分の意思を伝えてくれるようになりました。「ごはんが食べたい」「iPadで遊びたい」「絵本が読みたい」等。また、OT訓練の時、作業療法士の方に学校での出来事を一生懸命伝えていました。伝えてくれるようになったので、会話や質問すること（学校での出来事）が増えました。

まとめ

- ・ 自分の力で表出できる言葉（自分の経験した言葉等）が増えた。
- ・ 自分から家庭での出来事や授業で頑張ったことを伝えるようになり、表出することに自信を持ってきたと感じる。

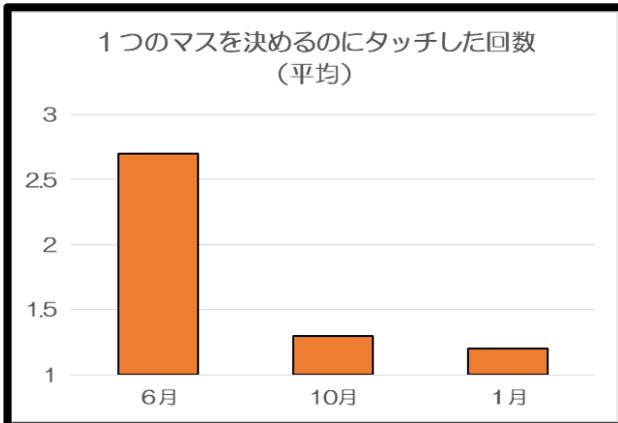
【報告者の気づきとエビデンス】

〔1〕『自分の気持ち（要求等）を的確に伝えることができる。』について

○主観的気づき①

「DropTalk のマスの配置を変えたことで、操作が上手になり、スムーズに自分の気持ち（やりたいこと、関わりたい人、挨拶、感情等）を伝えられるようになった。」

○エビデンス①



【変化】

- 10月から（L字にしてから）決めるまでのタッチ数が減った。

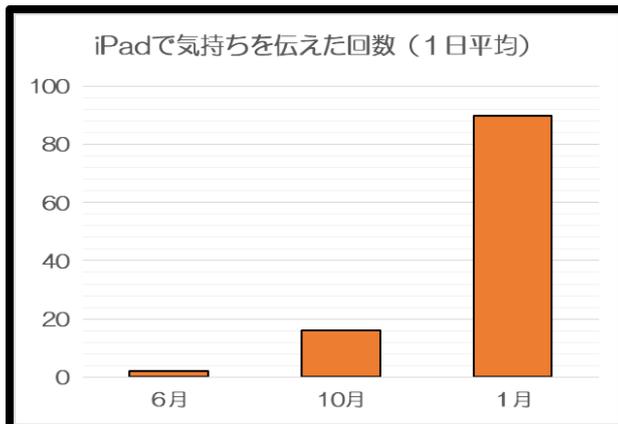
【考察】

- 6月は玩具だと思って様々なマスを押していたが、10月以降はツールとして理解できたと考えられる。
- マスの配置をL字にしたことで、タッチの正確性が上がったと考えられる。

○主観的気づき②

「DropTalk で伝えることに自信を持ち、気持ち（やりたいこと、感情、挨拶等）を伝える回数が増えた。」

○エビデンス②



【変化】

- 月を追うごとに伝える回数が増えた。

【考察】

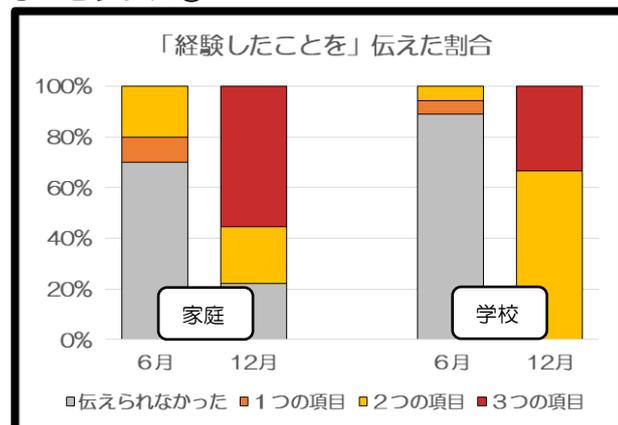
- 6月は休み時間のみを使用していたが、10月から机におくようになったためと考えられる。
- 1月はiPadを自分の必要な場面に応じて使いこなしていることが考えられる。

〔2〕「家庭での出来事等の『経験したこと』を教員や友達に伝えることができる。」について

○主観的気づき③

「ペチャラを使用して「経験したこと」を伝えられることが増えた。また、表出できる言葉が増えた。」

○エビデンス③



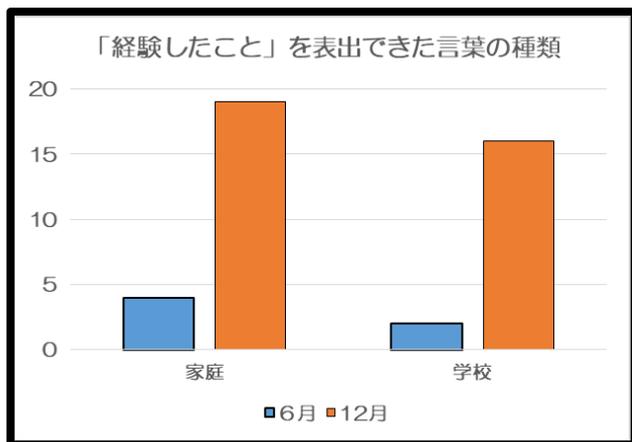
【変化】

- 6月は伝えられず手を合わせるが多かったが、12月は誰と何をしてどうだったかということも伝えることができた。

【変化】

- 動画／画像で振り返りをしてきたことで、表出に自信を持つことができたと考えられる。

○エビデンス④



【変化】

- 表出できる言葉のバリエーションが増えた。

【考察】

- 伝わる経験を積んだことで、内言語が表出言語になってきたことが考えられる。

○今後の見通し

- iPad で様々なことを伝えられるようになったが、iPad の五十音ボードだとまだタッチが不正確な部分もあり、練習や慣れが必要である。
- ⇒現状、iPad の一本化は難しく、ペチャラと併用していく。
- ペチャラで表出できる言葉が増えたが、まだ内言語のすべてを表出できていない。
- ⇒気付いたときにその都度練習していく。